

1. 寺院

記号	写 真	由 緒 等
①	 <p data-bbox="277 331 349 355">専教寺</p>	<p data-bbox="488 180 1196 204">宗派:浄土真宗本願派、本尊:阿弥陀如来、寺号:城谷山専教寺</p> <p data-bbox="472 220 2157 363">中世には真言宗の寺院として土地の豪族戸坂氏の祈願所となっており、無量寿院と称していたとされる。しかし、天文9年(1540)に戸坂氏が滅亡した後は無住となる。文禄3年(1594)に真宗寺に改め復興し、寛永15年(1638)に広島寺町超専寺の末寺となり寺号を城の谷専教寺に改称した。安芸の国浄土真宗地域では、阿弥陀専一の信仰を貫くことを門徒に厳しく求め、神祇信教や民間信仰を排除した。戸坂に於いてその役割を担ったのが当寺である。本尊は阿弥陀如来。(戸坂村誌、戸坂町誌)</p>
②	 <p data-bbox="264 571 340 595">禅晶寺</p>	<p data-bbox="488 371 1223 395">宗派:曹洞宗、本尊:観世音菩薩(聖観世音)、寺号:日光山禅昌寺</p> <p data-bbox="472 411 2157 651">日光山禅昌寺は元和元年(1615)3月17日に奈良県磯城郡田原本町の補蔵寺(謡曲観世流二祖世阿弥が出家得度修業せし寺)第七世乱簡斎守種禅師の弟子、東庵守陽禅師により現在の広島市中区薬研堀に創建された。原爆被災を含めて4度の火災や水害により十分な資料がなく詳しい由緒、因縁は不明である。藩政時代は藩の重役である御殿医小川白堂、武術家坂小半郷昌、剣術家貫心流細宗関、書家河原南汀等の菩提寺であり、また禅の道場となっていた。昭和40年戦災復興のため都市郊外開発の将来を見越して戸坂町狐瓜木に境内を移転し復興した。昭和45年経済高度成長の最中、物心両面の真の豊かさを求める財界の人々の後援を得て座禅道場道心寮を建立し広く大衆の禅の道場として親しまれてきた。昭和50年4月8日再び当地に境内を移し再建した。(掲示板)</p>
③	 <p data-bbox="250 810 327 834">持明院</p>	<p data-bbox="488 659 714 683">宗派:真言宗</p> <p data-bbox="488 691 714 715">本尊:聖観世音菩薩</p> <p data-bbox="488 722 714 746">寺号:嶺松山持明院</p> <p data-bbox="488 754 1458 778">広島市中島町から昭和42年12月20日現在地に移転、広島市女の原爆追悼碑がある。</p>

2. 神社

記号	写 真	由 緒 等

<p>④</p>	 <p>狐瓜木神社</p>  <p>狐瓜木豊穂稲荷社</p>	<p>祭神:本殿 ^{ホマダワケノミコト} 譽田別命(応神天皇)、^{オビ ナカ ヒコノミコト} 帶仲彦命(仲哀天皇)、^{オキナガタランヒメノミコト} 息長帯姫命(神官皇后)</p> <p>:相殿 ^{アイトノ} 風伯神(志那群比古神=海洋の神)、^{シ ナ ツ ヒ コ ノ カミ} 事代主神(大 国 主 命の御子)</p> <p>本殿3神の勧請は永観2年(984)、相殿の2神は貞観2年(860)と社記に伝える。文永11年(1274)安芸国守護、武田信時が狐瓜木神社を佐東郡の惣社とした。その後、大内義隆、毛利元就が神田を寄進している。浅野家からは代々祈願社として祭祀料や神器を奉納された。延享4年(1747)社殿が火災に遭い宝物類を多く消失した。社殿は永観2年(984)再建、大永5年(1525)三建、文化2年(1805)四建し、現在の幣殿、^{ヘイデン} 拝殿は文化2年に改築され本殿は大正元年(1912)に再建されたものである。(戸坂村史)</p> <p>^{クルメギトヨ ホ イナリシヤ} 狐瓜豊穂稲荷社跡地</p> <p>明治昭和20年(1945年)8月6日原爆投下の時、原爆の爆風をもろに受けた御殿、拝殿ともに倒壊する。同年10月に倒壊した木材を使って右上の御殿を再建する。屋根は本瓦がなくセメント瓦葺きであったが平成21年(2009年)6月に本瓦で葺き替えた。なお原爆の惨禍を示す遺跡として当時の拝殿跡地をそのまま残した。(揭示版)</p> <p>豊穂稲荷社は明治末期まで広島6社巡慶詣での稲荷社として著名で毎年2月1日祭事が行われていた。(「新修広島市志」第4巻)</p>
<p>⑤</p>	 <p>三宅神社</p>	<p>祭神:八幡三神(応神天皇、仲哀天皇、神官皇后)</p> <p>明德3年(1392)に八幡宮を勧請したといい、さらに文禄3年(1594)再興し、江戸時代には天明7年(1787)拝殿改築、寛政11年(1799)本殿再建、慶応元年(1865)拝殿、蔽殿を建替え、この拝殿が現存する。明治40年(1907)本殿と蔽殿を再建、若宮社ほか6社が明治13年合祀されている。</p> <p>三宅神社が勧請されるまでは戸坂全域を狐瓜木神社が注連下にしていたが、三宅神社が勧請されるに及んで祭祀圏を分割し、三宅神社は戸坂川を挟む大上、数甲、山根、惣田、出江を担うことになった。(戸坂村史、広島県神社庁資料)</p>
<p>⑥ ⑦</p>	 <p>琴比羅神社</p>  <p>龍泉寺観音</p>	<p>琴比羅神社</p> <p>祭神:^{オオナムチノカミ} 大 汝 神 (大 国 主 神)、^{オオ クニ ヌシノミコト} 小彦名之神</p> <p>医薬の術を世に伝え、世人の病患を^{キョウリョウウゴ} 救療擁護される御神徳があり、^{ゴ カミトク} 宿 病が平癒する靈験があらたかなので広く信仰されていた。創立年代は明らかでないが、万延年中(1860)の「滝の琴比羅宮社記」によると往古の勧請で、建部年中(1334~35)に足利尊氏が社頭に額面を寄進したとの記述がある。昔には滝の近くに温泉が湧出していたといわれ、湯坪、^{ユツボ カマイシ} 龍石という古名が今に伝承されている。世人がこの瀧の神水で湯浴をすると病がよく治ると、御恩頼いただく者が多かつた。(戸坂町史)</p> <p>龍泉寺観音</p> <p>^{ホンゾン セイカン ゼオン ボサツ} 本尊:聖観世音菩薩</p> <p>旧名は金毘羅龍泉寺観音で開基は不明である。文政2年(1819)西国八十八番札所となり、もっぱら観音の秘法を厳修し、領国の安泰と家内息災延命を祈願し、お守札を衆生に授与した。金毘羅神社を奥の院と呼称し、龍泉寺観音を^{シタガンボン} 下観音と称し神社が管理しているいわゆる^{シンブツコンコウ} 神仏混淆時代の^{ベツトウジ} 別当寺に相当するものであった。(別当寺=神社に付属して置かれた神宮寺の一)</p>

⑧	 <p>桜御前神社</p>	<p>サイジン コノハナサクヤヒメノミコト オオヤマズミノカミ 祭神:木花咲屋姫命(大山祇神の御子の神)、祭日:4月15日、</p> <p>戸坂西山(茶山)山頂に山の神の大山祇神が祀ってあった。ある年、出江の奥に住む^{キンシカ}金鹿族に悪い病がはやり顔が見苦しくなる。「我が姫御子の木花咲屋姫命をこの山すそに祀れば、たちどころに病が癒える」との大山祇神のおつげに、さっそく木花咲屋姫命を御(尾)森山に祀る。それ以来出江地区には美人が生まれると言う神話的な伝説があった。咲屋御前神社と呼ばれていたときもあるが花といえば桜なので後世に桜御前と称え奉ったものである。(掲示版)</p>
⑨	 <p>鎌神社</p>	<p>サイジン ダイクニヌシノカミ サルタ ヒコガミ 祭神:本殿 大国主神、相殿 猿田彦神</p> <p>戸坂村に古くから祀られている神社、「文化度国群志」(江戸後期文化12年(1815))に鎌大明神の名で記載されている。現在は鎌神社といわれ延徳3年(1491)11月地域住民が^{カンジョウ}勧請したとされている。爾来大上地域住民の^{ジライ}尊崇の念厚く、毎年春愁に例祭を行い、農漁業の守護、五穀豊穡、交通安全、安産長寿等の祈願をしてきた。昭和4年(1929)現在地に移築、平成4年に現社殿新築。</p>
⑩	 <p>大矢神社</p>	<p>祭神:火の可^カ遇^{グツチ}土之神(立派な統一を治める神)</p> <p>勧請された年は不明であるが文政12年(1829)9月に改築されている。</p>
⑪ ⑫	 <p>重氏稲荷社(松笠山)</p>  <p>重氏稲荷社(惣田)</p>	<p>主祭神:重^{シゲウジ}氏^{イナリ}稲荷大明神、</p> <p>祭神:天地御祖大神、伏^{フシ}見^ミ稲荷大明神、重^{シゲタ}忠^タ稲荷大明神、松^{マツ}姫^{ヒメ}稲荷大明神、丹^{タニ}波^ハ稲荷大明神、稲荷大明神、三^{サン}鬼^キ大^{ダイ}権^{ゴン}現^{ゲン}、音^{オト}吉^{キチ}稲荷大神、水^{ミズ}野^ノ木^キ大神、祖^ソ霊^{レイ}神</p> <p>当神社の主祭神は正一位重氏稲荷大明神と申しあげます。重氏稲荷大明神は京都伏見稲荷大社に奉祀されている宇迦之魂神を親神として現われ伏見山に鎮座されていまして。安芸の国(広島)には元和5年(1619年)徳川時代、初代広島城主浅野長^{ナガ}晟^{アキラ}公が紀伊の国(和歌山)より^{テンフウ}転封^{ミギリ}の砌、伏見稲荷より^{カンジョウ}勧請され、広島城内(三の丸付近)に社殿を造営のうえ鎮座され250年近く安芸の国を御守護下さいました。また、浅野家5代目城主浅野吉長公は、元文3年(1738年)広島城鬼門除け守護神として松笠山(戸坂東山)に稲荷神を勧請なされました。その縁により明治初年重氏稲荷大明神の^{ヨシナガ}靈魂は松笠山稲荷社の主祭神として遷座され、爾来今日まで萬民を御守護下さっております。昭和27年に至り戸坂惣田の現在地に社殿を造営して^{ワケミタマ}分魂^{ホウサイ}を奉齋し平成7年8月新社殿を造営し現在に至っております。(掲示板)</p>
⑬	 <p>原神社</p>	<p>祭神:八幡神、勧請は天文2年(1533)</p> <p>神社の由来は、当鎮座地一帯を惣田原と言うので里民がこの社を原神社と呼ぶようになった。創立年は不明であるが明治12年の神社調査によれば天文2年(1533)勧請とされている。なお神殿は文久3年(1862)、拝殿は万延元年(1860)に再建している。石灯笼は文化4年(1807)に寄進されている。(戸坂町史)</p>

⑭	 <p>八坂神社</p>	<p>スサノヲノミコト 祭神:素戔鳴命</p>
---	--	-----------------------------

3. その他の名所

記号	写 真	由 緒 等
⑮	 <p>長尾古墳群</p>	<p>長尾古墳群は、戸坂地域の市街地を見下ろす茶臼山(通称西山)から北に伸びる屋根上に位置しています。現在3基の古墳が残っており、その造営時期は、古墳から出土した土器等から4世紀後半から5世紀代と推定されています。古墳とは土を盛り上げた高塚状の墓で、3世紀後半頃から7世紀頃の古墳時代に、全国各地の豪族によって多数造られました。墳丘の形態によって、円墳や方墳などいくつかの種類に分られますが、なかでも前方後円墳は、規模や副葬品などから、それぞれの地域を治めた有力な豪族だけが造ることができた特別な形の古墳だと考えられています。長尾古墳群の中で、特に第1号古墳は、広島地域でも最大級の前方後円墳であるとともに、現在確認されている太田川下流域の前方後円墳の中で南端に位置しています。これらのことから、長尾古墳群は、古墳時代の前半期における太田川下流域を治める有力豪族の存在やその系譜等、当時の広島地域の状況を解明する上で重要な貴跡として史跡の指定を受けたものです。</p> <p>1号古墳(前方後円墳)墳長約42m、後円部径約24m、高さ約4.5m、前方部長さ約18m、最大幅約16m。2号古墳(円墳)、径約25m、高さ約5m。3号古墳(円墳)、径約13m、高さ約1.3m。</p> <p style="text-align: right;">平成17年3月 広島市教育委員会</p>
⑯	 <p>札場の石</p>	<p>札場という名前が示す通り、なにか村人に知らせたいことがあるとき、そこに「お触れ書き」が掲示された。この大きな石は背中にしよった荷物をあずけて休む都合の良い場所でもあったが、何か悪いことをした人をこの石のうゑに座らせ、さらし者にするなど刑罰を負わせる場所でもあった。この札場の石は山根に在ったが広島市と合併(昭和30年)するときに戸坂公民館の前庭の今の場所に移された。</p>
⑰	 <p>原爆慰霊塔</p>	<p>昭和20年8月6日、原子爆弾が投下され広島市は壊滅し、多くの被爆者が急造の陸軍病院戸坂分院(戸坂小学校等)に収容され多くの方が亡くなりました。この方々の遺骨を仮埋葬した証としてこの供養塔が建立された。(塔文)</p>
⑱	 <p>西山貝塚</p>	<p>貝塚とは、当時の人々が骨や貝殻など食べられないものや割れた土器などの不用品を捨てた場所です。牛田山のこの西山貝塚は、標高260mのところであり、今から1800年前頃の弥生時代後期のもので、カキやハマグリなどの貝殻に混じり、土器、石器、鉄器、青銅器、骨角器などがみついています。とくに巴形銅器とよばれる青銅器は県内でも出土例のない貴重なものです。また、この貝塚はこのような高地に集落が存在していたことを示しており、中国史書に伝えられる「倭国大乱」(2世紀後半頃)に関わる軍事的施設との見方が有力です。</p>
⑲	<p>戸坂城跡と山祇神社</p>	<p>西山の山頂には山城跡がある。往古この山頂一帯に山の民族が穴居していた。山民族は自分達の守護神である大山祇の神を祀り、その後、長年月にわたり代々の子孫が氏の神をあげて祭った。戸坂入道もまたこの山を拠点にし、この神を崇拝し、武運長久の祈願所とした。山頂に祀られた山祇神社は春秋2季「山祭」と称して里人が祭祀していたが、明治初年の狐瓜木神社に合祀した。</p>

⑳	 <p>戸坂入道道海の</p>	<p>武田氏の有力家臣であった戸坂入道道海は天文9年(1540)に自害している。自害の要因に次の二説あり。</p> <p>①大内義隆の軍勢が岩鼻(広島市尾長山)から西山に攻め上がり、戸坂城(西山)は落城、戸坂入道は自分の菩提寺である無量寿院の裏山、檜の根元で自刃した。(戸坂町史)。</p> <p>②大内、尼子、毛利、武田氏等の武将が領地拡大や存続にしのぎを削る戦国の世で、武田氏の勢力が減退し戸坂氏が武田配下から離反し大内方についたため武田勢に攻撃されたものと考えたい。(中世の戸坂氏について)。</p> <p>西山山頂の西斜面に戸坂入道海の墓地がある。</p>
㉑	<p>戸坂城出城跡</p>	<p>城北学園グラウンドの南山中に位置する。</p> <p>大内勢が戸坂城を攻略した時、太田川千足の攻防戦で戸坂入道を山頂方面へ退却せしめ、仲間次郎郷郎鳴るものが入道を討ち取った。この戦功により、感謝状と剣をもらった。(戸坂町史)</p>
㉒	 <p>いぼおとしの岩</p>	<p>戸坂発祥の地金鹿奥^{カネシカ}1555番地で1200年頃より広い地域の人々から信仰されてきた。広島城北学園拡大に伴い金鹿奥1573番地の現地点に移築した。</p> <p>(2000年12月6日 山田忠義)</p>